



<https://surala.jp>

IMPACT 2022年度活動報告書 MANAGEMENT REPORT 2022

Our Mission

教育に変革を、子どもたちに生きる力を。

世の中には、学力や所得、地域の格差などによって十分な教育を受けることができない子どもたちがいます。私たちはそうした子どもたちにも、ひとりひとりに合った新しい学習体験を届けます。

この学習体験を通じて、子どもたちは、「大人になっても役に立つ真の学力」と「努力をすれば結果が出るという自信」を身につけることができます。

私たちはこれらを実現するために、新しい学びの形を、学校や塾、その他の教育機関と共に築いていきます。



株式会社すららネット

東京都千代田区内神田1丁目14番10号 PMO内神田7階
TEL 03-5283-5158 FAX 03-5283-5159 <https://surala.jp>

株式会社すららネット | SuRaLa Net Co., Ltd.

August 2023

株式会社すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念とし、国内ではAIを活用したICT教材「すらら」を約2,500校*の塾、学校等に幅広く提供しています。また海外では、小学生向けICT算数教材「Surala Ninja!」を提供しています。発達障がいや学習障がい、不登校、経済困窮世帯を含む子どもたちにも学習の機会を提供するなど教育課題の解決を図ることで成長を続け、代表的なEdTechスタートアップ企業として2017年に東証マザーズ(現東証グロース市場)に上場しました。*2022年12月末現在



代表取締役
湯野川 孝彦

2020年に、当社事業がどのような社会課題を解決し、どのような成果(アウトカム)を目指すのかについてロジカルに見える化するべきインパクト評価への取り組みを始めました。当社事業がもたらす社会的インパクトとして「不登校」「発達障がい・学習障がい」「貧困」「低学力」の4つの社会課題を取り上げ、それらに対し定性・定量の両面から評価を試みました。インパクト評価へのチャレンジは、ITベンチャー国内のEdTech企業としてはきわめてユニークで新しい取り組みだと評価をいただきました。コロナ感染症による世界的な影響や、GIGAスクール構想の推進などにより、国内外で教育環境が大きく変化していることを受け、このたび当社がもたらす社会的インパクトをアップデートしました。

「すらら」を国内外に拡げることで、世の中のすべての子どもたちに高品質な教育を安価に受けられる機会を提供することにより、様々な教育格差の問題の解決を目指してまいります。

すららネットとインパクトマネジメントについて

すららネットの企業理念

世の中には、学力や所得、地域の格差などによって十分な教育を受けることができない子どもたちがいます。すららネットはそうした子どもたちにも、一人ひとりに合った新しい学習体験を届けます。この学習体験を通じて、子どもたちは「大人になっても役に立つ真の学力」と「努力をすれば結果が出るという自信」を身につけることができます。私たちはこれらを実現するために、新しい学びの形を、学校や塾、その他の教育機関とともに築いていきます。

インパクトマネジメントについて

ESGやSDGsの取り組みに代表される、持続可能な社会の構築への関心が世界的に高まる中、今や企業もその担い手としての役割を期待されています。すららネットはこれまで、国内外の事業を通じ、SDGsの達成目標「貧困をなくそう(SDGs #1)」「全ての人に健康と福祉を(SDGs #3)」「質の高い教育をみんなに(SDGs #4)」「ジェンダー平等を実現しよう(SDGs #5)」に積極的に取り組んできました。すららネットは、事業の評価にインパクトマネジメントの手法を取り入れることで、事業が生み出す社会への正のインパクトをわかりやすく表現することに取り組んでいます。

事業活動が社会や環境に与える成果を計測・評価し、継続的に事業を改善することでその成果を高めていくことをインパクトマネジメントと呼びます。具体的には、事業が目指すアウトカム(成果)とその実現に向けた戦略を「ロジックモデル」*で可視化したうえで、実況状況をモニタリングし、その分析結果を意思決定や利害関係者への報告に活用することで、Plan-Do-Check-Actionのサイクルを回していきます。すららネットは、このインパクトマネジメントを実施しそれぞれの課題の解決までのみちのりを可視化することにより、事業が社会にどのような効果を与えたのかを、定量・定性的に把握しました。そして現状での課題を明確にし、今後の取り組みに生かしていきます。売上や利益といった経済的価値に加え、事業が生み出した社会的価値を明らかにすることで、すららネットの企業価値をさらに高めていきたいと考えています。

*ロジックモデルとは、ある施策がその目的を達成するにいたるまでの論理的な因果関係を明示したものの

すららネットが解決したい社会課題と解決までの道のり

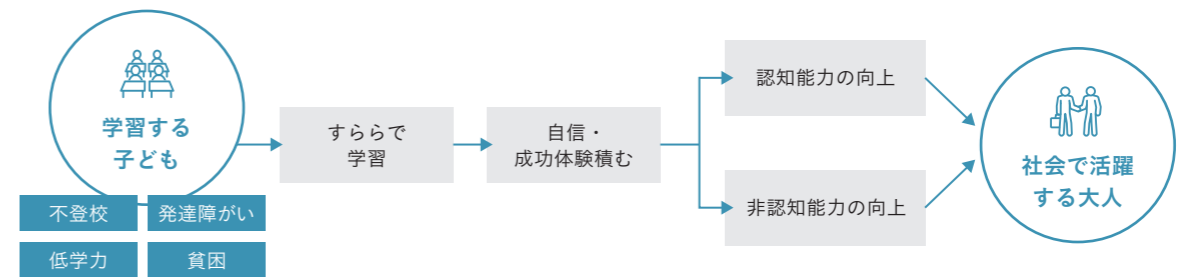
子どもたちが抱えているさまざまな困難は、子どもたちの将来に、また次の世代に続く可能性があります。すららネットは、そのような負の連鎖を断ち切ることで、さらにその先の格差を是正することに貢献したいと考えています。そのためには、子どもたちが将来、経済的に自立することが必要であり、それに向けた2つの力に注目しています。

- ① 学力などの「認知能力」
- ② 問題解決能力や協調性、自律性などの「非認知能力」

「認知能力」「非認知能力」とともに「自分はやればできる」という感覚を養うことで生まれ、小さな自信や成功体験積み重ねる育つ能力であると考えます。「すらら」は、義務教育を受けている子どもに等しく与えられている「学習」という機会を通じ、子どもの成功体験の蓄積を支援することができ、そのことが社会的に大きなインパクトを生むと考えています。

「すらら」は、学習塾、学校、家庭など幅広い場面で使われています。利用者の中には、さまざまな課題を抱える子どもとその家族があると認識しています。すららネットは「不登校」「発達障がい・学習障がい」「貧困」「低学力」などの困難や課題に直面している子どもとその家族に貢献したいと考え、これら課題を抱える子どもやその家族に与えるインパクトと、そのインパクトを創出するそれぞれの道筋について検証し、本インパクトマネジメントレポートで示しています。

すららのミッション：格差が連鎖しないための人づくり



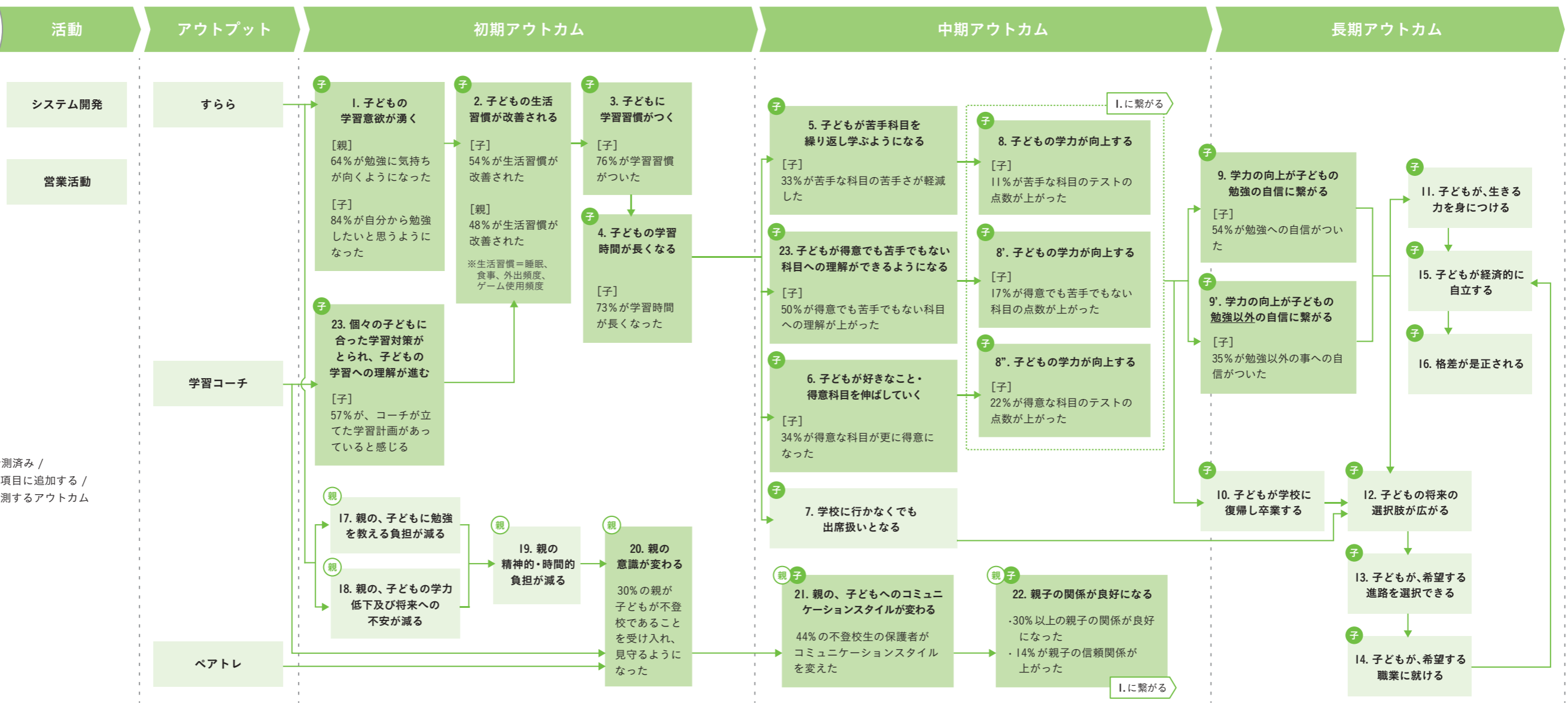
ここでは、すべてのロジックモデルで共通する道のりの概要をご紹介します。子どもは、学習を通じ成功体験を積み重ねる(「認知能力」の向上)ことにより自信をつけ、さまざまなことに取り組むようになります(「非認知能力」の向上)。その結果、自ら進学先や進路を考え選択することが可能となり、将来的に精神的、経済的に自立した大人になります。このような大人が増えることが、結果として社会課題解決の実現に貢献すると考えます。

すららネットの提供するICT教材「すらら」の特長

「すらら」は、学年にこだわらず体系的に学べ、学習したいポイントから学習できるようになっています。苦手分野に関してはAIが自動で問題を選んでつまづきを克服するための出題をしたり、テスト機能で知識や応用力の確認など、一人でも学習を進めることができるようになっています。

また、すららは、子どものモチベーションを保つため、ゲームデザインの要素を用いて子どもを飽きさせない工夫をしています。端末とネット環境があれば取り組むことができるので、机に座って学習することが苦手な子どもも、楽しみながら場所を選ばずに学習を進めることができます。

CASE #01
不登校



不登校の子どもとその親へのインパクト

子ども	親
・自分から勉強したいと思うようになった ... 84%	・子どもの状況を受け入れ見守るようになった ... 30%
・生活習慣が改善された 54%	・子どもに対するコミュニケーションスタイルを変えた 44%
・学習習慣がついた 76%	・親子の関係が良好になった 30%以上
・勉強への自信がついた 54%	
・勉強以外の事への自信がついた 35%	

★出席扱い制度認定者累計数：約 1,200 名、認定率：約 80% ※2023 年 3 月現在

不登校の子どもの中には、朝起きて日中活動し、夜は寝る、という一般的な生活習慣に沿って生活することに課題を抱える子がいます。学校に行かない（行けない）日も「すらら」で学習をすることで、生活習慣と学習習慣が整ったり、学校に行かなくても自宅で学習ができているという事実が自信に繋がるなどして、復学や受験に挑戦するきっかけになることがあります。親も、子どもが自宅にいながら学習している様子を目にしたり、子どもの学習の進捗を保護者も画面で確認したりできるため、子どもの学習の遅れに対する不安から解放され、子どもとより円滑なコミュニケーションをとることができます。

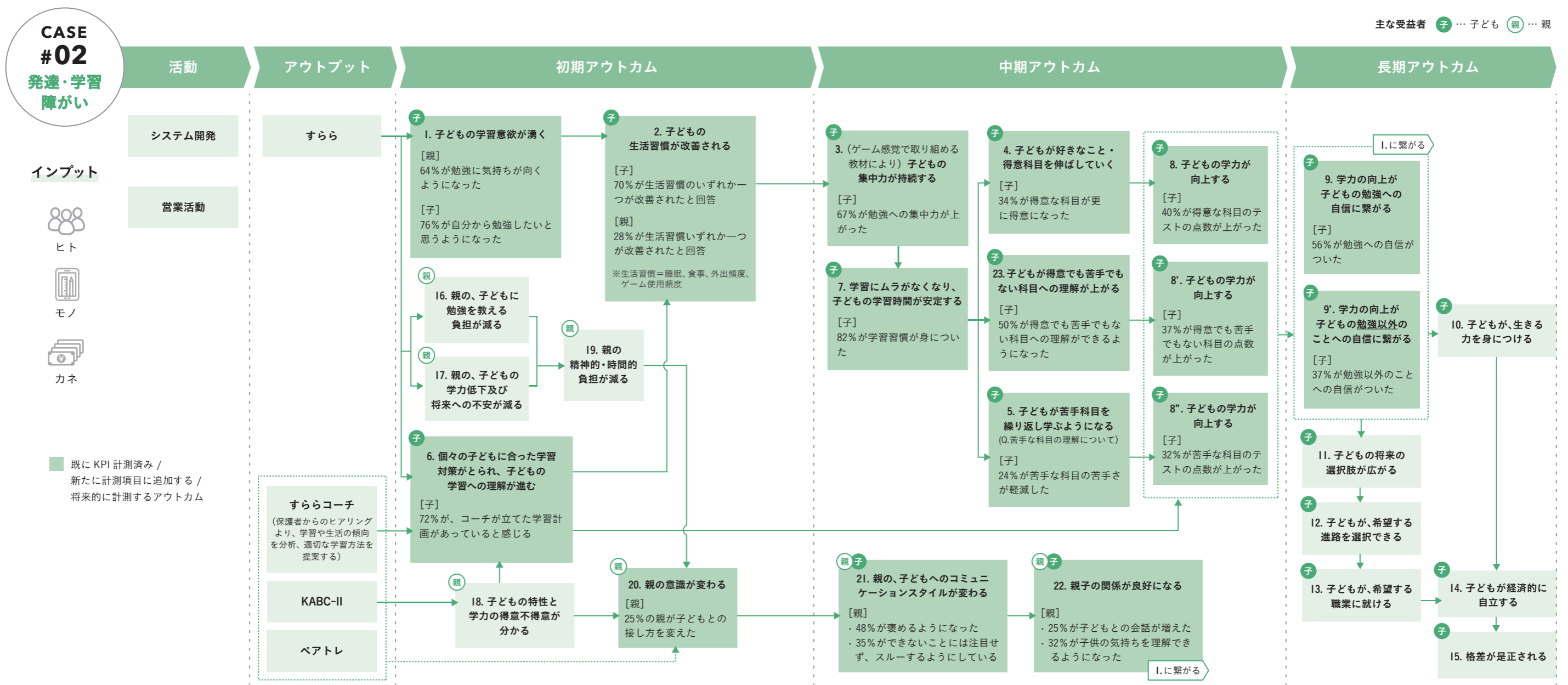
COLUMN #1

不登校の子どもが「すらら」で学習するタイミング

子どもが不登校となる理由は人間関係や学習の遅れなどさまざまです。不登校の初期は、子どもの中で理性（学校に行かないといけない）と本能（学校に行きたくない）のギャップが生じ、罪悪感や自己嫌悪の葛藤が生じて身動きがとれない状態となります。そして、保護者も同様にストレスを感じています。

この時期に無理に学習に取り組むことは効果につながりません。不登校という状況を受け入れることができ、子どもの気持ちが学習に向いてきた時に初めて「すらら」は力を発揮します。学校を休んだ期間、学習できなかった期間のさかのぼり学習をどこからでも始められ、自分に合った学習を実現できるからです。不登校をきっかけに「すらら」で学習している生徒の多くが「毎日取り組む時間を決めて『すらら』で学習した」と話しています。取り組んだ単元や問題の詳細、学習時間、掲げた目標に対する達成率などがすべて記録される「すらら」だからこそ、自宅学習のペースメーカーとして生徒、保護者に寄り添うことができるのです。子どもの気持ちが勉強や学校復帰に向いてきた時に、必要な学習に取り組むことができるよう、すららネットはサポートしています。

アンケート回答数：子ども 63 名、親 131 名



発達障がい・学習障がいの子どもとその親へのインパクト

子ども	親
・自分から勉強したいと思うようになった ... 76%	・子どもとの接し方が変わった 25%
・生活習慣が改善された* 70%	・ほめるようになった 48%
・学習習慣が身についた 82%	・会話が増えたり、子どもの気持ちを理解できるようになった 25%以上
・勉強への自信がついた 56%	
・勉強以外の事への自信がついた 37%	

発達障がい・学習障がいの子どもの中には、学び方に独自性がある子が多くいます。一度聞くだけでは理解が難しい子どもでも、何度も説明を聞ける「すらら」なら、自分のペースで学ぶことができます。また、発達障がいの特徴の一つのルーティーン化して取り組むことを強みとする子どもにとっては、「すらら」を生活の一部にすることによって、学習習慣が身につくケースがアンケート結果を通じて分かりました。その他、すららネットでは子どもの特性に応じた学習方法や接し方に関する情報を保護者に提供しています。保護者からは、子どもの学習意欲が安定し、学力向上につながったとの声も出ています。

COLUMN #2

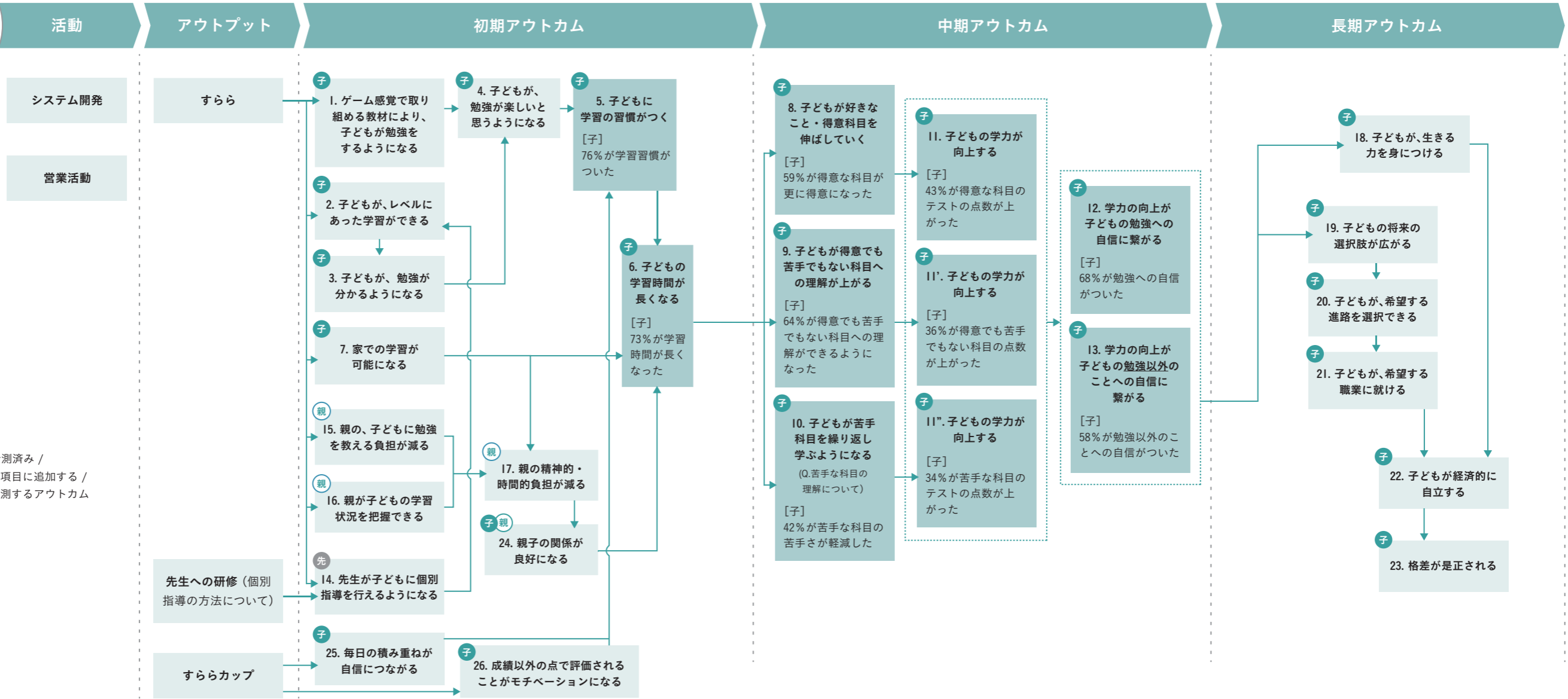
発達障がい児も学びやすいよう、インクルーシブ的発想を取り入れた「すらら」

発達障がいのある子どもは、高い知能を持つ場合も多いものの、得意不得意の傾向が顕著なため学校の集団教育では対応しきれなかったり、周囲とのコミュニケーションが難しかったりすることが学習意欲の妨げになるなど、学校生活や学校での勉強につまずきを感じる場合があります。そういった子どもの学習をサポートするため、すららネットは「すらら」小学校低学年版を発達障がいの専門機関「子どもの発達科学研究所」監修のもと開発しています。研究所の子どもの脳の機能や発達、環境との相互作用といった面から科学的に理解し、最新の研究成果を、コンテンツ開発に活かしています。



数的概念を把握するための「すらら」レクチャー画面

CASE #03
低学力



低学力の子どもへのインパクト

子ども

- 学習習慣がついた 76%
- 勉強への自信がついた 68%
- 学習時間が長くなった 73%
- 勉強以外の事への自信がついた 58%

学校ではみんなが同じ単元の学習を進めていく必要がありますが、「すらら」では、自分の理解度に合わせた単元でできるところから問題を解いていくことによって、小さな成功体験を積み、「自分もやればできる」という感覚を養うことができます。また、根本理解を促す体系学習により学年で学習内容を区切っていないため、学年にこだわらず自分の理解度に応じて学習を進めることができます。

結果として、低学力に属する「すらら」の利用者は、他の利用者より多く「勉強への自信がついた」と回答しています。「やればできる」という自信をつけた子どもたちは、勉強以外の所でも意欲を持って取り組むようになり、社会や自分の将来に対して前向きになったり、関心が高まったりした利用者も見られました。

COLUMN #3

学力格差の解消に効果を発揮する「すらら」

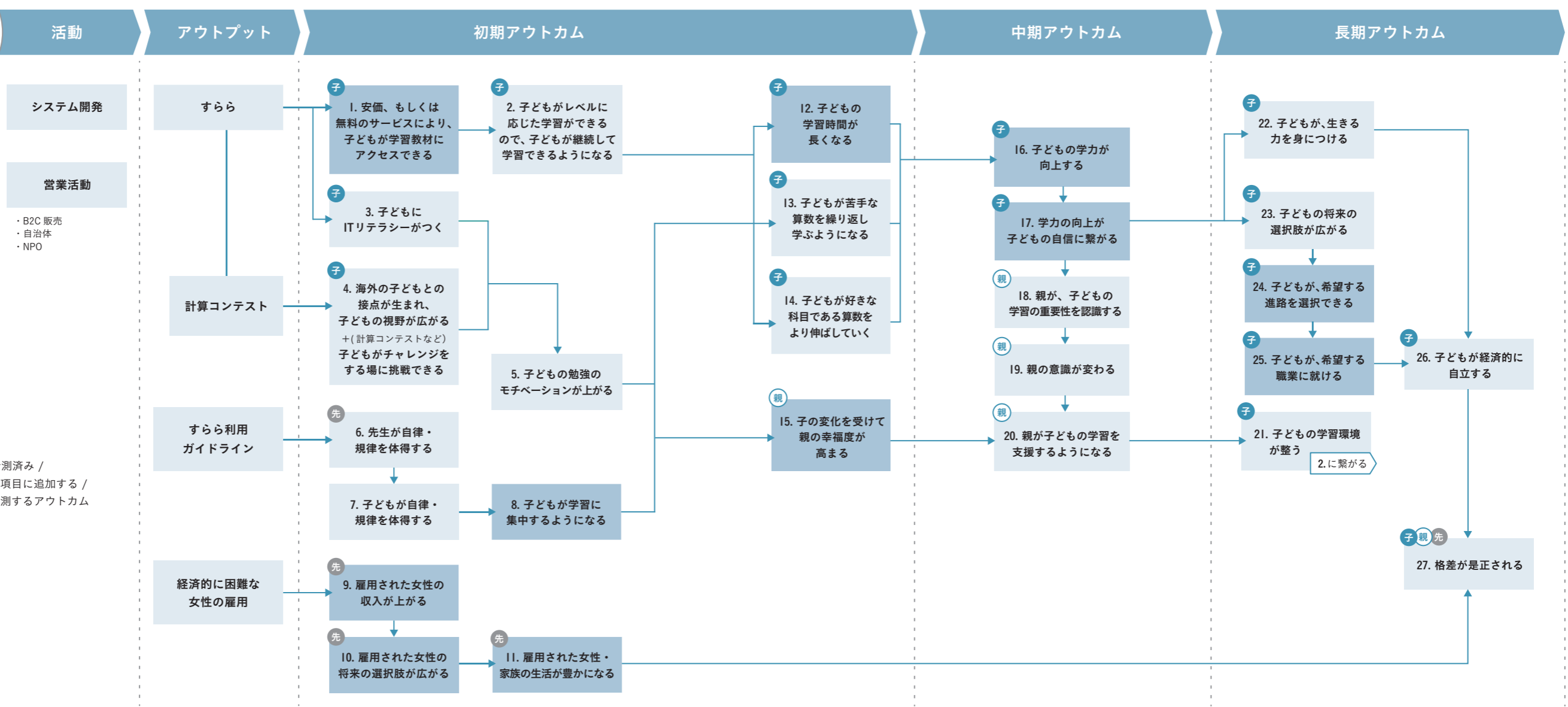
▶▶ 個別最適な学習機会の提供が可能になる

多くの生徒は、苦手な科目の「わからないところが分からない」という課題に直面し、質問すらできないという状況になる事があるのではないのでしょうか。たとえ先生がその状況に気づいていたとしても、一斉授業ではその生徒にかかりきりで教えることはできません。「すらら」のテスト機能には AI 機能を搭載。生徒一人ひとりの弱点が自動的に出題されるようプログラミングされており、テストで苦手分野を確認・復習することができるようになっています。生徒一人ひとりの理解度が学習データから確認できるため、データをもとに先生が生徒をフォローすることができます。

▶▶ 過疎地域における教育格差の是正に

教師不足や、塾が遠くにある過疎地域においては、授業時間外での学習時間確保に繋がらない、生徒間での競争心が沸きにくく学習意欲が向上しにくいという課題があります。八丈島にある中学校で、中学 2 年生の 25 人の生徒を対象に「すらら」を導入した実証事業を実施したところ、95% の生徒で英語の点数が向上するという結果が出ました。このように「すらら」は、過疎地特有の課題のソリューションとしても有用性が示されています。海外在住の日本人児童生徒に対しても同様の課題があり、実際に「すらら」を利用されています。

CASE #04
貧困



貧困の子どもへのインパクト

スリランカで塾を運営するヤマナさんは、小学生向け日本式算数 ICT 教材「Surala Ninja!」を使って生徒に算数を教えています。「『Surala Ninja!』を使って学習を始める前は、ほとんどの生徒は指を使って計算していましたが、徐々に暗算ができるようになり、算数のテストの点数がぐんと伸びました。興味深いことに、勉強ができるようになると、生徒の人間形成にも良い影響があるようです」と言います。



スリランカでは、質の高い算数の指導教員が不足しており、ニーズはあっても一定の質の学びを得るには高額な授業料がかかるため所得の低い家庭では手が出ないという現状があります。比較的費用が賄える範囲で、オンラインで楽しく学びを得ることで、一人一人が「I can do this!」という感覚を身につけることのインパクトは、算数一教科にとどまらず、子どもの将来の選択肢を増やすことに繋がると考えられています。

COLUMN #4

すららネットのデジタル算数教材、スリランカの NGO、NPO で続々導入

すららネットは、2014 年から途上国での取組みを行っています。私立学校での「Surala Ninja!」導入のほかスリランカでは、低所得の家庭の子どものための算数教室「Surala JUKU」を展開。また、孤児や DV にあった子ども達を受け入れている NGO「SOS 子どもの村」などの組織を通じて、「Surala Ninja!」を提供、教育支援活動に参画しています。



日本式算数 ICT 教材「Surala Ninja!」

新型コロナウイルスの感染拡大以降、スリランカの子どもたちは長期間の休校で学習機会を失い続けており、状況は深刻です。そのような中、これまで実施した「Surala Ninja!」による様々な算数能力向上の実証事業の実績が認められ、2023 年から現地の国際 NGO、NPO 合わせて 15 施設での導入を開始します。これを機に、今後はスリランカ国内での導入をさらに促進すると共に、この実績を活かしてインドネシアやフィリピンでも NGO、NPO などと組むことで、一層の事業拡大を目指していきます。

COLUMN #5

小中学生の不登校が24万人を突破。文科省が自宅ICT学習の成績評価への反映を推奨

2021年度、小中学生の不登校は24万人余りと過去最多を更新しました*。当社への出席扱い制度に関する問い合わせ件数も昨年比で約1.5倍となり**、過去最多となる見込みです。このような中、文科省は2023年3月、新たな不登校対策『COCOLOプラン』を公表。一定の要件を満たした上で、自宅でICTを活用して学習した場合も学習評価を行い成績評価に反映することが望ましいとの見解を示しています。

自分のペースに合わせて一人でも学習を進められる「すらら」は、不登校の生徒の学びに大変適しているため、当社はこれまで不登校支援を積極的に行ってまいりました。自宅学習の他、学習塾、フリースクールやNPO、近年では自治体でも、「すらら」を活用した不登校支援の取り組みが広がっています。

≫ フリースクールで、不登校生の成績評価を実現

【完全個別指導型の学習塾『学び舎 かなえ』（長野県長野市）】

学習塾から、通信制学校、フリースクール3校を運営する『学び舎 かなえ』では、すららネットのICT教材を取り入れ、学習状況や理解度を一人ひとりと対話しながら、サポートを行っています。同校での学習が出席扱い制度に適用され、成績評価までも実現するなど、自治体と密に連携した不登校生のサポートの新たな仕組みを作っています。

<https://manabiya-kanae.jp/freeschool/>

≫ 最先端技術や教育データで不登校生を支える実証事業

【熊本市教育委員会】

当教育委員会は、2022年に、増加する不登校児童のために、バーチャル空間を利用した支援の実証事業をNTTコミュニケーションズ（株）の参画を得て開始しています。ここでは、児童生徒が自由に集まり、コミュニケーションできる機会が作られています。「すらら」を含む各種学習データを一元管理するダッシュボードでは、児童生徒の学習状況や変容が可視化され、一人ひとりに合った効果的な支援が実現しています。

* 2022年文科省調べ ** 2023年6月末の当社データに基づく

COLUMN #6

学習塾への家計支出が過去最高に

文部科学省が発表した2021年度の「子供の学習費調査」*によると、公立、私立ともに学習塾への家計支出は増え続けており、年平均支出は公立・私立いずれも過去最高だったことがわかりました。

- 公立小：8万1,158円（18年度比52%増）
- 公立中：25万196円（18年度比23%増）
- 私立小：27万3,629円（18年度比8%増）
- 私立中：17万5,435円（18年度比14%増）

学習塾代を支出している家庭の割合は、小学校では公立38.9%（同0.2ポイント減）、私立73.0%（同2.1ポイント減）で大きく変わっていません。児童生徒1人当たりの学習塾費が増えているようです。

ICT教材「すらら」の月額利用料は5教科で約1万円弱**。公立小学生の塾代としては平均を上回りますが、5教科使い放題であることを考慮すると、高いとは言いきれないと考えられます。私立小、公立・私立中の塾代においては調査結果より低い価格帯となっています。また、「すらら」はお子さんの学習到達度に合わせて学びが特長のため、学び直しも先取り学習も可能なこと、部活や習い事などお忙しいお子さんも好きな時間に学習が可能なこと、ご家族が「すらら」での学習を見守り確認してあげられることなど、メリットが数多くあります。

* 文科省「子供の学習費調査」 https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa03/gakushuui/kekka/k_detail/mext_00001.html

** すららネットの利用料金（個人申し込みの場合） <https://surala.jp/home/price/>

独自の取り組み

すららネットでは、地域、年齢、環境に関わらずに参加できる、ユニークなイベントを開催しています。学力だけではない、「努力」や「社会課題を考える力」、「チームワーク」などの競い合いに、毎年たくさんの児童生徒が参加しています。

「すららカップ」

偏差値や点数ではない「努力量（がんばり）」を、世界中のすららユーザー約30万人と競う

「すららカップ」は、すららネットのICT教材を利用する国内外の児童生徒が、取り組んだ学習時間や実施単元数などの「努力量（がんばり）」で競い、評価するイベントです。海外版「すらら」の「Surala Ninja!」を利用するインドネシア、スリランカの児童、イギリスや韓国など海外で「すらら」を利用する児童も参加するワールドワイドなイベントです。

「苦手だった歴史が得意になった」「嫌いな英語の単語テストで100点がとれた」など、すららカップは点数や偏差値が評価軸ではないからこそ、苦手科目に取り組むことができます。このイベントを通じて、「やればできる!」という体験ができることは、子どもたちの自信にもつながっているようです。



すららカップのオンライン表彰式の様子。国内外の受賞者が受賞の喜びを語ります。

「すらら アクティブ・ラーニング」

ICTの活用により、参加者が、学年・地域に関係なく社会課題解決に取り組む

「すらら アクティブ・ラーニング」は、日頃の授業やICT教材の「すらら」を用いて教科学習で学んだ知識を活かして、より高次の学力である「課題解決力」「コミュニケーション力」などの21世紀型スキルを身につける機会を提供するイベントとして、2015年より毎年開催しています。これまでに、延べ2,300人以上の児童生徒が参加。イベント参加をきっかけに自分の興味関心に気づき、進路選択など将来の夢や希望を発見したり、学びの楽しさを実感してその後の学習が前向きになったりするなど、子どもたちの変化が楽しみと指導者や保護者から高い評価を得ています。



2020年から最終プレゼンはオンラインに。それを活かしたプレゼンが続々登場。

発達障がいの子ども — お子様が発達障がいのH様

勉強に対するコンプレックスがなくなったことで、対人関係が改善

「すらら」を始めて、勉強に対するコンプレックスがなくなったことで、友達関係が良くなりました。勉強に対するコンプレックスがあると友達に対しても卑屈になってしまうのでしょうか。以前は「友達に馬鹿にされる。死にたい。」と言っている時期もあったが、「すらら」を始めて学力が上がってきてからはそれがなくなってきました。先日小学校を卒業しましたが、友達いっばいで卒業することができました。また、私が子どもの学力に関する不安がなくなったことから、私（親）が「勉強しなさい、なんでこんなの分からないの」ということを言わなくなり、親子関係が良くなったと思います。もし、そういうことを言いたくなったら、「すらら」での学習項目を前に戻して、分かるところから子どもが勉強に取り組めるようにしています。学校の先生によると、息子は今では下級生に対するロールモデルのような存在になっているようで、下級生に対して「ちゃんと勉強しなよ」などというようになったそうです。

不登校の子ども① — お子様の不登校のT様

将来に希望を持てなかったわが子が、自ら将来のことを考えはじめるように

以前は「勉強も仕事もしたくない」と言っていた娘ですが、「すらら」を始めて、将来のことを考えるようになってきたと思います。「こういう仕事につくには、どうすればよいのか？」と親に聞いたり、いろんな職業がテレビに出てきて、それに対して興味を持つようになりました。最近ではなんでも職業に関連させて聞いてくるようになりました。

不登校だった頃、学校に申請して「すらら」での学習が出席扱いとして認められるようになったことで、高校受験をすることができ、無事合格することができました。「すらら」は勉強した時間がシステムに記録されるので、本人の努力の記録が残るのが良かったです。記録があることでそれを学校にも提出できますし、自分の自信にもなったようです。

不登校の子ども② — お子様の不登校のY様

「自分で考えて、自分で決める」自主性のある子どもに

「自分で考えて、自分で決める」ことができる子どもになりました。今までは、言われてやるというような感じでしたが、いつもというわけではありませんが、自分から「そろそろすららをやろうかな」というように、自ら決めて、行動に移せるようになってきました。「すらら」を始めて学力を取り戻し、学校に行けるようになったことが自信に繋がり、その成果ではないかと思えます。

学校に行けるようになると、周りの人から色々な事を教えてもらったりして、他人と少しずつコミュニケーションを取れるようになってきました。家から出られないときは「すらら」をやって、自信をつけて、少しずつ外の世界と繋がる。「すらら」は、外の世界との懸け橋になっていたようです。

About us

教育に**変革**を、子どもたちに**生きる力**を。

「すらら」は2005年に開発をスタートし、
アニメーションキャラクターによる対話型レクチャー機能が特長のICT教材です。

英語・国語・算数/数学・理科・社会の各分野における著名講師や
eラーニング研究で技術を持つ大学教授などの協力を得て開発しています。

「すらら」は、従来の先生や講師が一方向的に教える学習スタイルとは異なり、
ゲーミフィケーションを応用することで学習意欲やモチベーションを高める、

AIが自動でつまづきのある単元まで戻って問題を出すなど、
一人ひとりの理解度や進み方に合わせた個別最適な学習を実現するICT教材です。

株式会社すららネットは、「すらら」をはじめとして、
『わかる』『できる』『勉強が楽しい』を基本コンセプトとしたICT教材の企画・開発と販売、
学校や学習塾など向けにコンサルティングを行っている会社です。

会社名

株式会社すららネット（英文名 SuRaLa Net Co., Ltd.）

設立日

2008年8月29日

所在地

東京都千代田区内神田1丁目14番10号 PMO内神田

連絡先

TEL 03-5283-5158

資本金

2億8,377万7千円

事業内容

eラーニングによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、
マーケティングプロモーション及びホームページの運営

Website

<https://surala.jp>